

■障害児教育における教材・教具集第Ⅱ部

泉 慎一 編

輪抜き

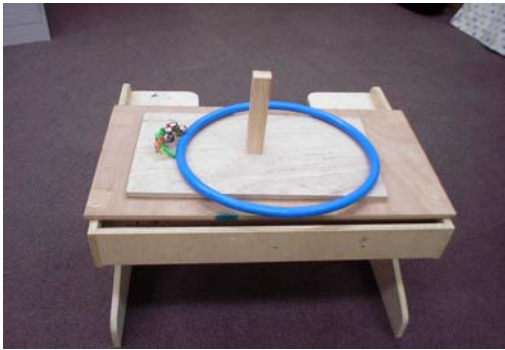


図1 輪抜き教材

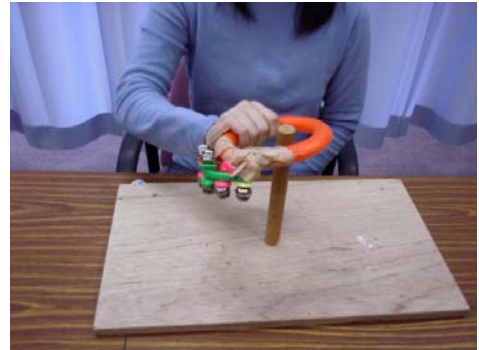


図2 使用場面

対象児

目と手の協応動作が難しい段階の子供。

分野

自立活動（主に「環境の把握」の区分）

ねらい

主体的に操作することが難しい対象の子供に対して、操作する面白さを味わわせながら目と手を協応させる動作の経験を積ませる。

使い方

1) 手順

- ①子供の正面に教具を置き、教師は子供の横に位置する。
- ②子供の学習態勢が整ったら
- ③輪を入れた教材を、子供の前に配置する。
- ④子供の前で教師が模範を見せる。
- ⑤子供の手をガイドしながら一緒に輪抜きを行う。
- ⑥一人でやることを促す。
- ⑦できたら賞賛する。

2) 配慮事項

- ①手順 NO. 3 ～ NO. 5 の内容については、課題が「自分で取り組む」ことが理解できたところで省略する。
- ②手順 NO. 7 については、課題が達成できたか否かを伝える意味合いもあるので、このことが分かるような方法で行う。
- ③学習の初期は、中心の棒を低くし、比較的容易に課題が達成できるようにする。
- ④輪は子供が興味をもてるように、鈴を取り付けた。
- ⑤課題をクリアしたときは、中央の棒を色々な形にして課題を高くする。

効果

- 1) 目と手を協応させて操作しようとする様子が見られるようになった。
- 2) 「あれ？」、「えーと」などと考えながら課題学習に取り組む様子が見られるようになった。

作り方

- 1) 子供が握りやすい輪を用意する。
- 2) 中心になる棒を用意する。
- 3) 重みのある底板を用意する。

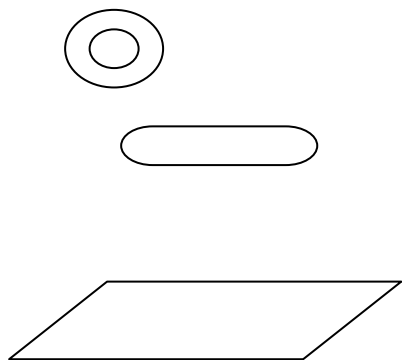


図3 各部品

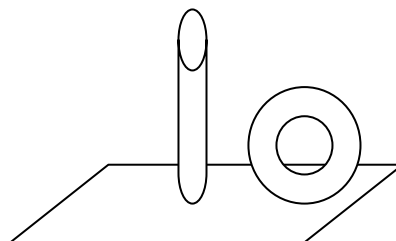


図4 組み立て完成図

積み木入れ

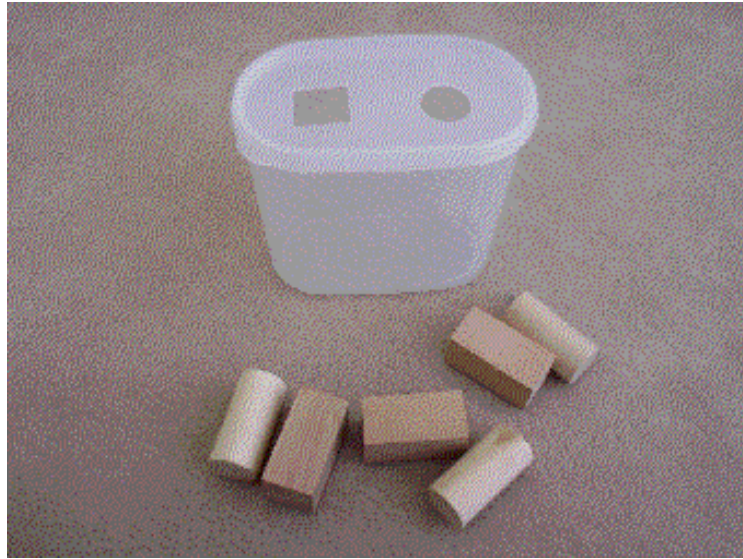


図1 積み木入れ

対象児

手指で持って操作することが難しい子供。

分野

自立活動（主に「環境の把握」の区分）

ねらい

小さめの積み木を持って、タッパーを切り抜いた穴に差し込み、積み木を指先で押し入れていくことで、目と手の協応動作や手指の巧緻性をねらう。また、円柱の積み木や四角柱の積み木を使うことで、弁別しながら入れることもねらう。

使い方

1) 手順

- ①子供の正面に教具を置く。
- ②子供の学習態勢が整える。
- ③子供の前で教師が模範を見せる。
- ④積み木を差し込むところまで大人が準備する。
- ⑤子供の手をガイドしながら一緒に押し入れる。
- ⑥一人でやることを促す。
- ⑦できたら賞賛する。

2) 配慮事項

- ①手順③～⑤の内容については、課題が「自分で取り組む」ことが理解できたところで省略する。
- ②手順⑥については、課題が達成できたか否かを伝える意味合いもあるので、このことが分かるような方法で行う。
- ③学習の初期は、積み木を差し込むところまで大人が準備し、押し入れるところを子供が操作する。

効果

- 1) 手のひらで押し込んでいた子供が、徐々に指先で押し込む様子が見られるようになった。
- 2) よく見ながら操作することができるようになった。

作り方

- 1) ふた付きの加工しやすいタッパと子供が持ちやすい積み木を用意する。
- 2) タッパに積み木より少し小さめの丸と四角の穴を開ける。

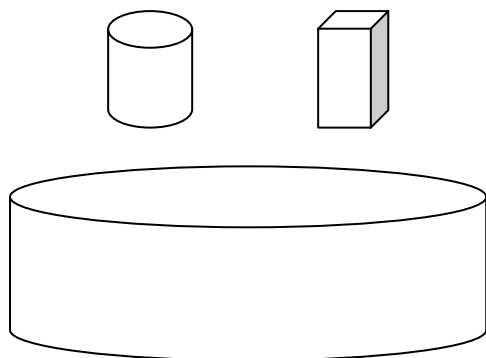


図3 各部品

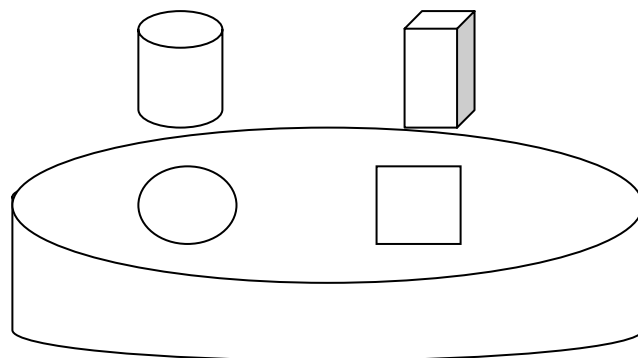


図4 組み立て完成図

パズルで遊ぼう



図1 パズル教材



図2 使用場面

対象児

知的障害がある児童・生徒。イメージする力が弱い児童・生徒。

分野

自立活動（主として環境の把握の区分）

ねらい

発達が初期の段階にある子供にとって、視覚的な認知力を促進するためには、目と手の協応動作は重要な役割を果たす。手の動きを目で追って操作することが難しい段階にある対象児に対して、操作する面白さを味わわせながら目と手を協応させる動作の経験を積ませる。

使い方

1) 手順

- ①子供の正面に教具を置き、教師は子供の横に位置する。
- ②子供の学習態勢が整ったら
- ③「パズル」を開始する。
- ④まず、教師が見本を見せる。
- ⑤子供と一緒に取り組む。
- ⑥できあがっていく過程を考えさせる。

2) 配慮事項

- ①パズルに取り組むことが難しい方の場合は、同じ絵や写真を下地にし、その絵に合わせて取り組んでいくことを何回か繰り返し、できるようになってきたら、下地にトレーシングペーパーをかけ、薄く見せるようにします。この課題がクリアできたら、下地をはずし、見本にします。このように少しずつステップアップをしていくと良いと思います。

効果

- 1) できあがるものをイメージしながら取り組めるようになった。
- 2) よく考えながら取り組むようになった。

作り方

- ①大きさの違う長方形の2枚の段ボールを用意する。
- ②動物や乗り物などの子供が興味をもちやすい写真や絵を用意する。
- ③写真や絵を描いたものを貼り、切り抜いたあと、各ピースに分ける。
- ④切り抜いたものを台紙に貼り、フレームを作る。

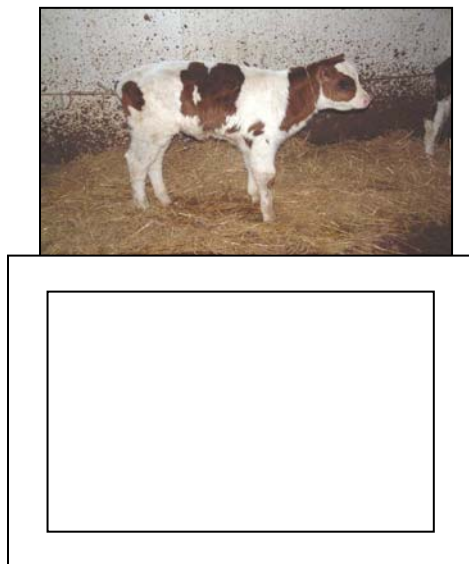


図3 各部品

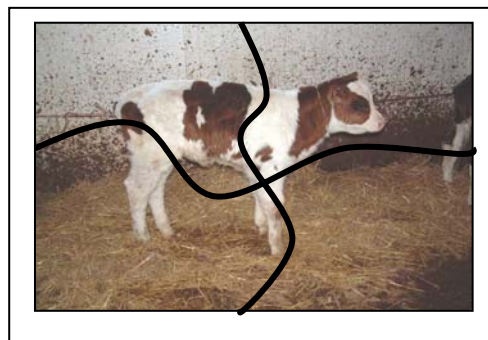


図4 組み立て完成図

玉入れ



図1 玉入れ教材



図2 使用場面

対象児

小学部2年生で肢体不自由と重度の知的障害があり、目と手の協応動作が難しい段階の子供。

分野

自立活動（主として環境の把握の区分）

ねらい

肢体不自由に他の障害を併せ有する重複障害のある子供は、周囲からの働きかけに対して、自分の意思を表出可能な表情や発声等の手段を用いて表現はするものの、運動・動作が制限されているためか、自分から積極的に周囲に働きかけることは少なく、ともすれば受動的な生活を送りかねない。主体的に操作することが難しい対象児に対して、操作する面白さを味わわせながら目と手を協応させる動作の経験を積ませる。

使い方

1) 手順

- ① 子供の正面に教具を置き、教師は子供の横に位置する。
- ② 子供の学習態勢が整ったら
- ③ 「どうぞ」と言って、ボールを取り、子供に手渡す。
- ④ ボールを教師から受け取る。
- ⑤ 「ここに入れてください」といって、容器の穴を指さす。
- ⑥ ボールを的に入れる。
- ⑦ できたら賞賛する。

2) 配慮事項

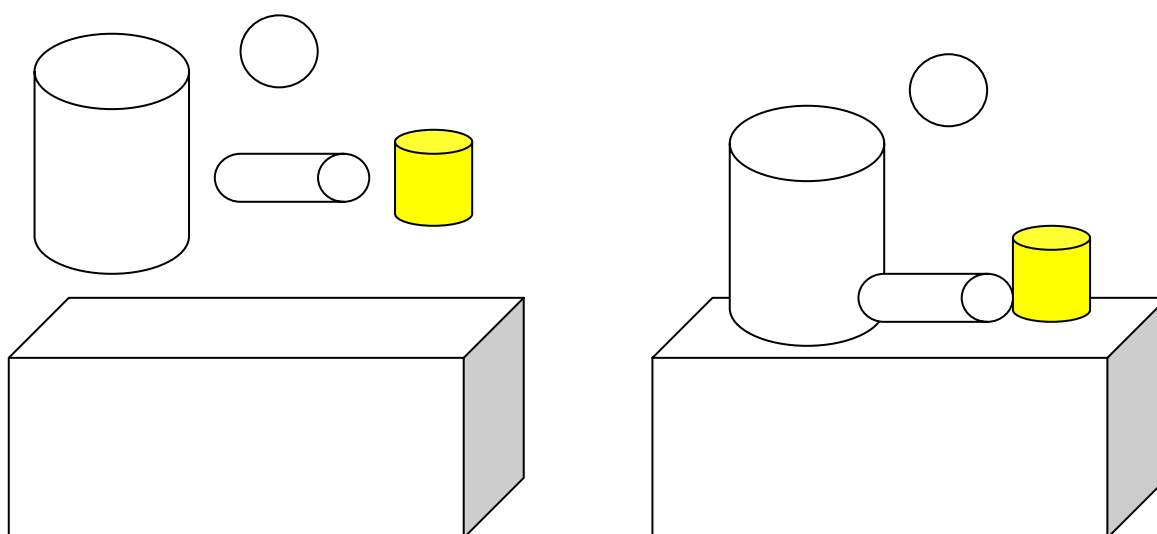
- ① 手順NO.5の内容については、課題が「ボールを容器に入れる」ことが理解できたところで省略する。
- ② 手順NO.7については、課題が達成できたか否かを伝える意味合いもあるので、このことが分かるような方法で行う。
- ③ 学習の初期は、容器の穴を大きくし、比較的容易に課題が達成できるようにする。
- ④ 活動の終点が分かりやすくなるように、ボールが入ると回転灯が点灯し、好きな音楽が短時間流れる。
- ⑤ ボールは子供が興味をもてるように、鈴の入ったボールを使用した。

効果

- 1) 目と手を協応させて操作しようとする様子が見られるようになった。
- 2) ボールを入れたらランプがついたり、音楽がなり出したりするなどの因果関係を獲得することができた。

作り方

- 1) ボールを入れる部分は、ペットボトルを使用。
- 2) ボールを入れたら回転灯が点灯するように、スイッチを取り付ける。
- 3) 土台となる部分は、転倒防止のため、なるべく重い木材を使用。
- 4) 土台部分に音楽が流れるように、ミニカセットデッキを取り付ける。
- 5) ボールを入れた後、子供がボールを取りやすいように、ロール紙を半分に切りレールを作る。
- 6) ボールは、子供の興味をもてるようなものを使用。



ビー玉落とし



図1 輪抜き教材

対象児

目と手の協応動作が難しい段階の子供。

分野

自立活動（主に「環境の把握」の区分）

ねらい

主体的に操作することが難しい対象の子供に対して、操作する面白さを味わわせながら目と手を協応させる動作の経験を積ませる。

使い方

1) 手順

- ①子供の正面に教具を置き、教師は子供の横に位置する。
- ②子供の学習態勢が整ったら
- ③子供の前で教師が模範を見せる。
- ④子供の手をガイドしながら一緒に輪抜きを行う。
- ⑤一人でやることを促す。
- ⑥できたら賞賛する。

2) 配慮事項

- ①手順 NO. 3～NO. 5 の内容については、課題が「自分で取り組む」ことが理解できたところで省略する。
- ②手順 NO. 7 については、課題が達成できたか否かを伝える意味合いもあるので、このことが分かるような方法で行う。

- ③学習の初期は、中心の棒を低くし、比較的容易に課題が達成できるようにする。
- ④輪は子供が興味をもてるように、鈴を取り付けた。
- ⑤課題をクリアしたときは、中央の棒を色々な形にして課題を高くする。

効果

- 1) 目と手を協応させて操作しようとする様子が見られるようになった。
- 2) 「あれ?」、「えーと」などと考えながら課題学習に取り組む様子が見られるようになった。

作り方

- 1) 茶筒とビー玉を用意する。
- 2) 茶筒のタッパーの部分に、ビー玉の直径より少しだけ小さな穴を開ける。その際に、切り込みを入れると押し込みやすくなる。

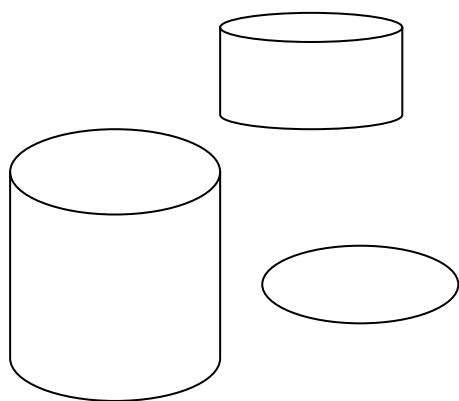


図2 各部品

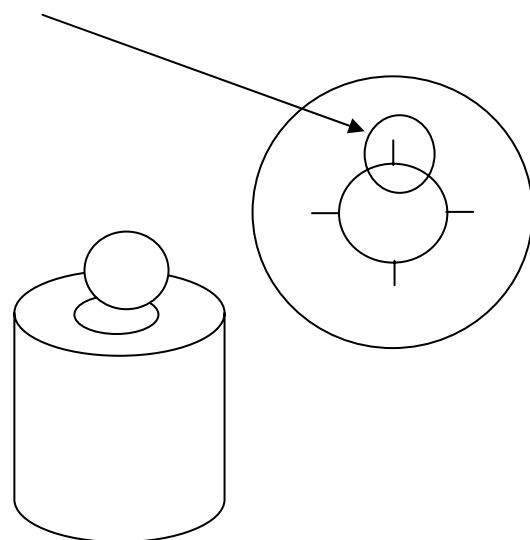


図3 組み立て完成図

ボール入れ

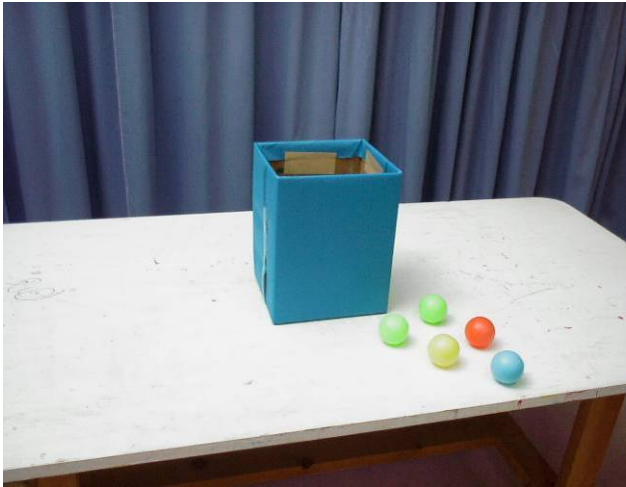


図1 的入れのボックスとボール

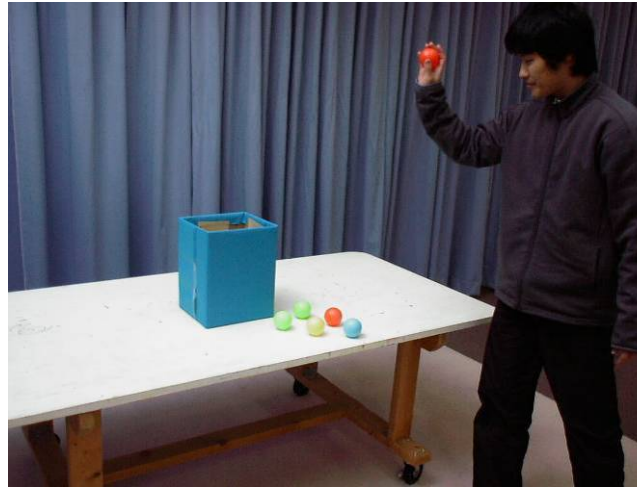


図2 的入れをしている様子

対象児童・生徒

肢体不自由および知的障害のある児童・生徒。

分野

自立活動（主として「環境の把握」の区分）

ねらい

目標に向かってボールを投げることで、追視する力や行動を調整する力を養うことをねらいとする。

使い方

1) 手順

- ・テーブルに設置されたボックスをめがけて、所定の位置からボールを投げる。

2) 配慮事項

- 最初は近い距離から始め、児童・生徒が成功感を十分に感じてから徐々に距離を伸ばしていく。
- 児童・生徒の実態に合わせ、ボールや的の大きさ、ボックスを置くテーブルの高さ、投げる位置を調節する。
- ボックスに入れることができたときは、言葉を掛けたり、拍手をしたり、賞賛する。

効果

- ボックスに入れるためにはどうしたら良いか、考え、調節するようになった。
- ボールを追視するようになった。
- 簡単なルールに応じられるようになった。

段ボール倒し



図1 段ボール箱



図2 使用場面

対象児

肢体不自由および知的障害のある児童・生徒。

分野

自立活動（主に「環境の把握」の区分）

ねらい

発達が初期の段階にある子供にとって、視覚的な認知力を促進するためには、目と手の協応動作は重要な役割を果たす。手の動きを目で追って操作することが難しい段階にある子供に対して、操作する面白さを味わわせながら目と手を協応させる動作の経験を積ませる。

使い方

1) 手順

- ①子供の正面に教具を置く。
- ②子供の学習態勢が整える。
- ③箱の中に入れてある鈴などを鳴らし、一回模範となるように箱を倒す。
- ④実際、子供が箱倒しを行う。

2) 配慮事項

- ① ただの箱だけでも構わないが、子どもたちが倒したいように、鬼や海賊の絵などを描くと、より興味・関心をもちやすようにする。
- ② 鈴や豆などを段ボールの中に入れ、音が出るようにすることで、より興味をひくようにする。

効果

- 1) 手を上手に使って、倒すことができるようになった。
- 2) 日頃から、休み時間などに友達と遊ぶことができるようになった。

作り方

- 1) 段ボール箱と白い紙を用意する。
- 2) 段ボールに黒い紙を貼り付ける。
- 3) 段ボールの中に、音が出るように豆や鈴を入れる。

4) 鬼や海賊などの怖いイメージの絵を描き、貼り付ける。

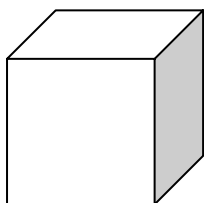


図3 各部品



図4 組み立て完成図

天気調べ



図1 天気調べ教材

対象児

肢体不自由と重度の知的障害があり、目と手の協応動作が難しい段階の子供。

分野

自立活動

ねらい

教師と一緒に天気を確認する教材。

使い方

1) 手順

- ② 教師と一緒に天気を確認する。
- ③ 天気ボードに今日の天気を貼り付ける。
- ④ 友達に報告する。

2) 配慮事項

天気調べは、重度の子供には意外と難しいことなので、教師と一緒に取り組む。

作り方

- 1) フェルトを切り抜き、子供が分かりやすい天候になるようにする。
- 2) マグネットで取り付けられるようにする。
- 3) 雨は、雨粒大のビーズを使用。

ミラーボール



図1 ミラーボール

対象児

肢体不自由児、知的障害児。

分野

自立活動（主に「環境の把握」の区分）

ねらい

光を遮断した暗い部屋の中で、ゆったりした流れの音楽に合わせてミラーボールを回転させることで、リラクセーションを促す。

使い方

1) 手順

- ⑤ 光を遮断した暗い部屋に、ミラーボールと光源を配置する。
- ⑥ ゆったりした音楽に合わせて、ミラーボールに光源を当てる。

2) 配慮事項

- ⑦ 静かな雰囲気を感じさせ、心身共にリラックスすることを促す。
- ⑧ 子どもたちがリラックスできる姿勢に注意する。

作り方

- 1) 必要なくなった CD-ROM、球形のボール、釣り糸など。
- 2) ミラーボールをつり下げる、中心になる棒を用意する。
- 3) ミラーボールに光を当てる光源を用意する。
- 4) 重みのある底板を用意する。

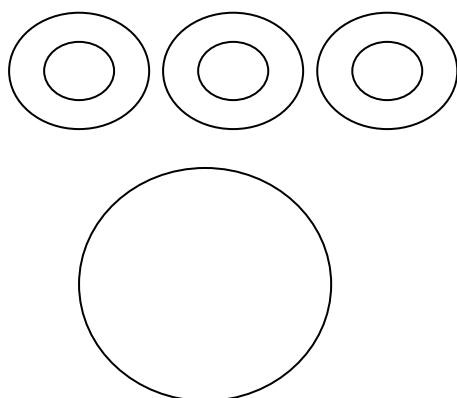


図2 各部品

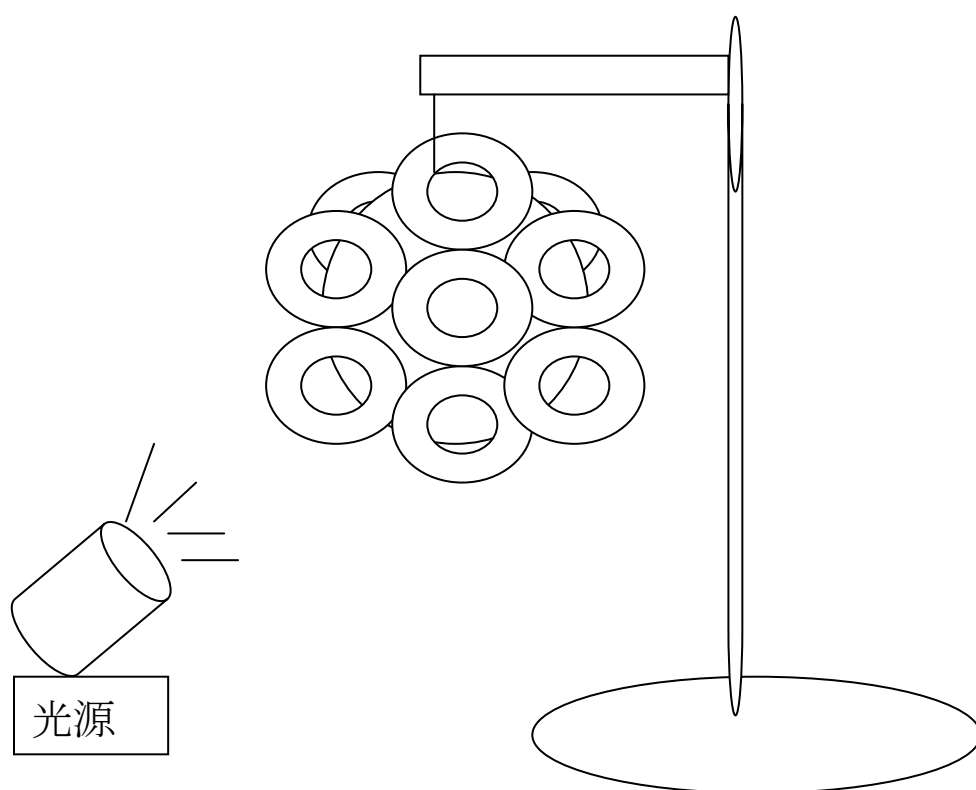


図3 組み立て完成図

紙皿あそび



図1 紙皿教材

対象児童・生徒

重度の知的障害がある生徒。

分野

自立活動（主として「環境の把握」の区分）

ねらい

発達が概念形成の初期の段階にある子供が、様々な写真・絵等をまとまりのある形としてとらえ、その内容を読み取る力を身に付けることをねらう。

使い方

図2 紙皿教材を動かして様子

1) 手順

- ①子供の見やすい位置で、2枚の紙皿を提示する。
- ②「これから、〇〇がイチゴをたべちゃいます」などと話しかける。
- ③イチゴを上にして、紙皿を重ねる。
- ④歌に合わせながら、紙皿を切り口にそって少しずつずらしていく。

2) 配慮事項

- ①注視を促すことをねらうので、子供の視線に配慮する。
- ②紙皿をずらすときは、ゆっくりと子供の好奇心を引き出すように行う。

効果

- 1) 教材に興味をもち、注視するようになった。
- 2) イチゴがなくなることを予測することができるようになった。

作り方

- 1) 紙皿を2枚用意する。
- 2) 紙皿に、子供が興味をもつようなキャラクターの絵などと、イチゴやバナナなどの子供が好きな食べ物の絵を描く。
- 3) 紙皿に切り込みを入れる

